

「お金の使い方で生き方が変わる」

林 祥平（成城学園高校 1 年）

今の時代、お金はどんな人にも必要不可欠な道具となっている。だがそのお金の使い道や、使い方は人によって様々である。サラリーマン、弁護士、専業農家、フリーター、自営業者、教師、医者・・・職も様々なようにお金の使い道も本当に多種多様なのである。人はお金の使い方によってどう変わるのだろうか。僕はお金（の使い方）が人を変える最も簡単な道具だと思う。例えば、子供がテストでいい点をとってごほうびだと言ってお小遣いを与える。その子供はお小遣いをもらって喜ぶだろう。そしてテストでいい結果を出せばまたお小遣いがもらえる。だからもっと勉強をがんばると言うことになるだろう。これはお金をうまく使った結果だ。今の逆の例を挙げてみる。宝くじで3億円当てた人がいる。その人は3億円を一瞬で手に入れてしまったせいでもう働く気がなくなってしまった。一生懸命働くのでなく楽しんで大金が手に入る術を見つけてしまったのだ。こういう例は実際に存在してもおかしくはないはずだ。これがお金のもたらす悪い結果だ。だが今の時代お金を全く使わずに生活するというのはまず不可能だ。どんな人里離れた所に住んでいる人でも電気は使うし、水も使う。どんな生き方をしてもお金は必要なのだ。だからこそよりお金のことを知っておくべきではないかと思う。お金は人を動かし、社会を動かす。お金のために国が動くこの時代、お金のことを知っていて損をするだろうか？いや損をするはずがない。お金のことを知っていれば、この時代の勝者になりうるかもしれない。

いつの時代にも、どんな国にも上流階級、中流階級、下級という社会階層が存在する。ただ現代は階層として表に出ることはまずない。だが、個人個人の頭の中で自分はきつこうだ、だからこうなりたいと言うような思考上の階層区分は未だ根強く存在するはずだ。僕は上流階級にだけはなりたくないと思っている。それは何故か？その答えは僕の上流階級とはどんなものか？という認識というか、固定観念によるものだ。僕は上流階級とは、お金を十分すぎるほど持っていて、そして自分の欲しい物には惜しみなくお金をつぎ込む人というイメージがある。かといってお金を全くいらぬと言うわけでもない。僕の中では下級とは日々の生活をやっと過ごしていけると言うようなお金のやりくりで大変困っている人というイメージがある。僕は今自分は中流階級にいると思っている。そして僕は今後も中流階級のままでいいと思っている。それは僕が中流階級とは、お金を生活に困らない程度に持っていて、自分の欲しい物を買えるという人のことだというイメージがあるからだ。しかし、欲しい物を買えるというのは、お金の額に関係なく買ってしまおうことでは決してない。お金の額に関係なく買うのは、それはもう自分の中では上流階級と同じと見なしてしまう。僕が望む中流階級は、要は物の価値というものをよく理解している人のことを言うのだ。また上流階級とは、要は物の価値も分からずにお金をつぎ込めるだけつぎ込むと言うことだ。まあ、人が最も理想とするのは僕の考える上流階級なのかもしれないが。お金は実にどんな物でも変えることのできる万能の道具だと思ってしまう。何故そんなことが言えるのだろうか？例を挙げて説明したい（表1参考）。

1991年ソビエト連邦崩壊によりできた国、ルーマニア。この国はソビエト連邦が崩壊して資本主義の国としてできた。このルーマニアという国の実態はどういうものか、日

本と比較してみる。幼児死亡率と一人当たりGNP（米\$）から分かるように、ルーマニアの国民は独立後、10年ほどたった現在貧困状態にあるようだ。その理由としては国民が意識は以前と変わらず大多数が、共産主義のままだったからではないだろうか。しかし社会は資本主義になってしまったため、国民の意識は社会に適応できなかったようだ。そのため、国の治安を守る警察官までもが必要以上にお金に執着していたのではないだろうか。拘留者に面会を求め、その人に会うためにわざわざお金を払って面会するというのが現実だったようだ。このようにこの当時のルーマニアの人達の大多数が共産主義から資本主義への環境の変化についていけず、お金におぼれていた。このとき最も重要な現実はお金に関わっていると言うことだ。

このようにお金は人の醜いところをさらけ出す。だからといってお金を避けていたら何も始まらない。お金は大変気まぐれだと思う。お金をほとんど持っていない人が少量のパチンコ玉を買いパチンコ台の前に座る。そしてパチンコ店から出てきたらその人の両手には多くの食品なり何なりが抱えられている。だからもっとお金を知る必要があるのだ。また、大変お金持ちの人が、お金の大半を使い株を買った。その人が株を買った会社は今大変な成長を見せていて、今株を買ったら確実に今後株価は急上昇するだろうと考えその人は買った。だがその数ヶ月後その会社は倒産した。その人の持っていた株券はただの紙切れと化してしまった。その人はお金持ちから貧乏人へと一気に落ちてしまった。こんな経験絶対起こりっこないと思っている人もいるだろうが、実際にこれとかなり似かよった経験をした人がいると聞いたことがある。このようにお金はいつ、どこで、どんな人に何をするか分からない。前者のように全員が全員運良く幸福に出会えるとは限らない。むしろ後者のような今までの人生を変えるような不幸な経験をする人の方が多いのではないだろうか。

こんな不幸な経験をしないためにもお金の使い方をもっとよく知って、お金とのつきあい方をもっと考えた方がよいのではないだろうか。そうすれば一時の幸福感が増えるだけでなく、不幸な体験をすることも避けられるのではないだろうか。お金とのつきあい方を少し改善するだけでその人の暮らしぶりがどんなに上向きになることだろうか。幸せをつかむキーは「お金に執着することにあらず、お金と真っ向から向き合いお金の使い方学ぶことにあり」と言えるだろう。

表1 日本とルーマニアにおける生活状態比較

		1991年以前	2000年
ルーマニア	<u>総人口</u>	23300 (×1000)	22402 (×1000)
	18歳未満の人口	5600 (×1000)	5096 (×1000)
	<u>幼児死亡率 (1歳未満)</u>	27/100 (人)	21/1000 (人)
	5歳未満の死亡率	34/100 (人)	24/1000 (人)
	<u>安全な水が飲める人</u>		
	全体		58%
	都市部		93%
	農村部		16%
	<u>衛生状態のいい住環境</u>		
	全体		53%
	都市部		86%
	農村部		10%
	<u>国民総生産 (GNP)</u>		
	<u>100万ドル</u>		36,191
1人当たりGNP (米\$)	1,390	1,600	
日本	<u>総人口</u>	124000 (×1000)	126505 (×1000)
	18歳未満の人口	22800 (×1000)	23371 (×1000)
	<u>幼児死亡率 (1歳未満)</u>	5/100 (人)	4/1000 (人)
	5歳未満の死亡率	6/100 (人)	4/1000 (人)
	<u>安全な水が飲める人</u>		
	全体		
	都市部		
	農村部		
	<u>衛生状態のいい住環境</u>		
	全体		
	都市部		
	農村部		
	<u>国民総生産 (GNP)</u>		
	<u>100万ドル</u>		5,149,185
1人当たりGNP (米\$)	26,930	40,940	

(ユニセフ公式ホームページより2000年のデータ)

(世界銀行「1998年ATLAS」より。1996年の数値)

(1993、1994年世界子供白書より)